

各 位

上場会社名	イーター電機工業株式会社
代表者	代表取締役社長 北川 浩
(コード番号)	6891)
問合せ先責任者	執行役員管理部長 山本 浩之
(TEL)	03-3745-6740)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月16日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,710	115	85	△35	△4.18
今回発表予想(B)	4,169	△88	△167	△239	△28.66
増減額(B-A)	△541	△203	△252	△204	———
増減率(%)	△11.5	—	—	—	———
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	4,520	△78	△117	△381	△45.62

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	450	390	140	16.73
今回発表予想(B)	8,500	250	135	5	0.60
増減額(B-A)	△1,500	△200	△255	△135	———
増減率(%)	△15.0	△44.4	△65.4	△96.4	———
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	8,472	△212	△547	△1,017	△121.60

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,210	△65	△95	△100	△11.95
今回発表予想(B)	2,126	△141	△223	△256	△30.71
増減額(B-A)	△84	△76	△128	△156	———
増減率(%)	△3.8	—	—	—	———
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	2,202	△91	△129	△255	△30.51

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,000	90	50	45	5.38
今回発表予想(B)	4,355	96	3	△32	△3.82
増減額(B-A)	△645	6	△47	△77	———
増減率(%)	△12.9	6.7	△94.0	—	———
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	4,295	△316	△611	△910	△108.88

修正の理由

1. 連結業績について

(1) 第2四半期連結累計期間業績

当第2四半期連結累計期間につきましては、売上高は当社の主要な事業領域である電源機器関連事業におきましては、市場全体の景気減速傾向が如実に反映し、取引先各社の生産計画の下方修正、特に海外向け生産計画の見直しに連動して、売上高が伸び悩みました。

通信・放送関連事業におきましては、施主側の局舎工事の計画変更による受注減が影響した結果、当初予定しておりました売上の一部が下期にずれ込みました。

電子・メカトロ関連事業におきましては、耐雷機器の新製品市場投入遅れにより当初予定を下回りました。

医療・環境関連事業におきましては、医療用酸素濃縮器の市場投入遅れにより当初予定を下回りました。

その結果、売上高は前回発表予想より541百万円減少し、4,169百万円となる見込みです。

加えて各部門にわたり原材料価格の高騰による部品仕入価格の値上がり为主要因として製造費用が継続的に上昇傾向で推移いたしました。当社グループといたしましては、様々な角度から原価の抑制・低減にむけた体制の整備を進めておりますが、その効果が充分でなく、前回発表予想の営業利益115百万円は営業損失88百万円となる見込みであります。

また、当社におきまして技術開発協力会社に対する貸付金について貸倒引当金57百万円を営業外損失として計上いたしました結果、経常利益は前回発表予想85百万円から経常損失167百万円、四半期純損失は前回発表予想35百万円から四半期純損失239百万円となる見込みであります。

(2)通期業績

売上高につきましては、下期においても国内外の景気減速傾向は継続し、市場環境はなお厳しいものと予想されますが、当社の主要な事業領域である電源機器関連事業におきましては、新たにESシリーズ全36機種をリリースし、既に好評を頂いていることから、一定の売上水準は確保できるものと考えておりますが、全事業部門における第2四半期連結累計期間の売上減少の影響、および各事業部門における下期の市場動向を勘案して再度予想いたしました結果、前回発表予想より1,500百万円減少し、8,500百万円となる見込みであります。

なお、今期より取組んでまいりました使用部品の統合化などによる材料費の減額や製造工程の見直し等による労務費、外注加工費の低減等による製造原価全般の大幅な抑制・低減に向けた各種対応策が段階的に実現する事。および、管理部門における研究開発計画の見直しによる経費削減を中心に、管理コスト全般の大幅な経費削減を実施することにより、前回発表予想の営業利益450百万円は営業利益250百万円、前回発表予想の経常利益390百万円は経常利益135百万円、前回発表予想の当期純利益140百万円は当期純利益500百万円となる見込みであります。

2. 個別業績について

連結業績予想の修正理由と同様であります。

(注)上記業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因により、予想数値と異なる可能性があります。

以 上